

件名

富士山大沢崩れの計測結果について

平成23年12月16日

国土交通省
富士砂防事務所

国土交通省富士砂防事務所では、大沢崩れの崩壊、変遷状況について、昭和46年より継続的に計測をしていますが、本年度の計測結果がまとまりましたので報告します。

1. 概要

- ・ 昨年からの一年間で、大沢崩れの斜面からは約16万 m³の土砂が崩落しました。
- ・ そのうちの約6万 m³の土砂は、平成23年3月の富士宮を震源とする震度6強の地震の際に崩れたものと思われます。
- ・ 昨年からの一年間で大沢崩れから約14万 m³の土砂が下流に流出しました。
- ・ つまり、差し引き約2万 m³（約16万 m³－14万 m³）の土砂が、大沢崩れの谷底部に昨年からの一年間で堆積したことになります。
- ・ 平成12年の谷底と比べて、当時から約4.2万 m³の土砂が大沢崩れの谷底に貯まっています。



図－1 富士山大沢崩れ

※平成23年11月19日に発生した小規模な土石流による変化については現在調査中です。

2. 計測結果

①1年間の変化

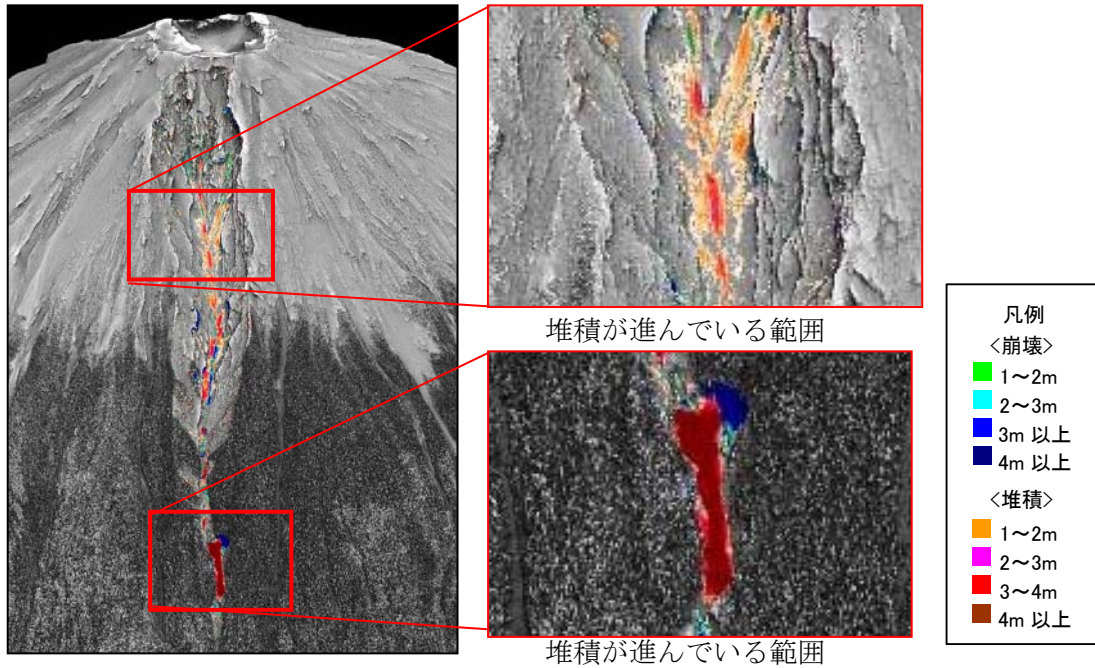


図-2 平成22年10月から平成23年10月までの変化

②平成23年3月の地震による変化

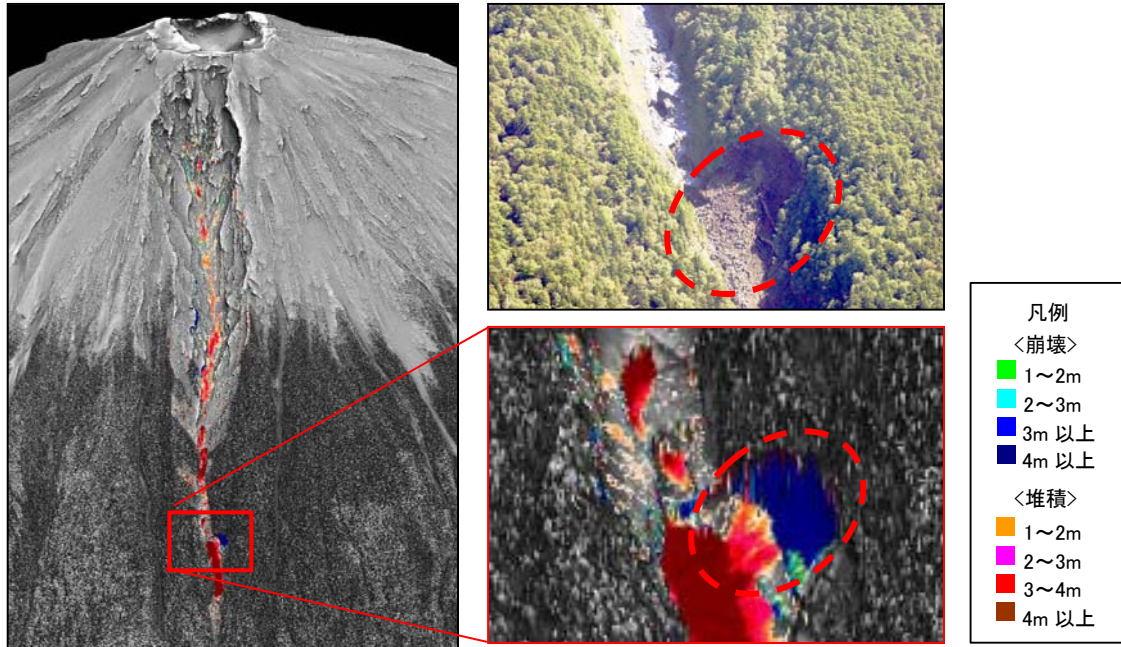
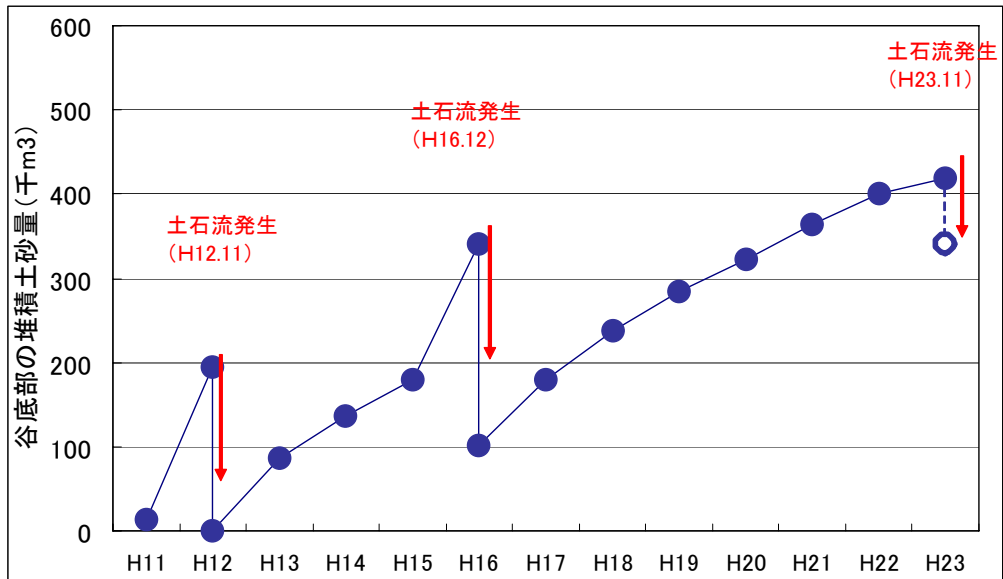


図-3 平成22年10月から平成23年6月までの変化

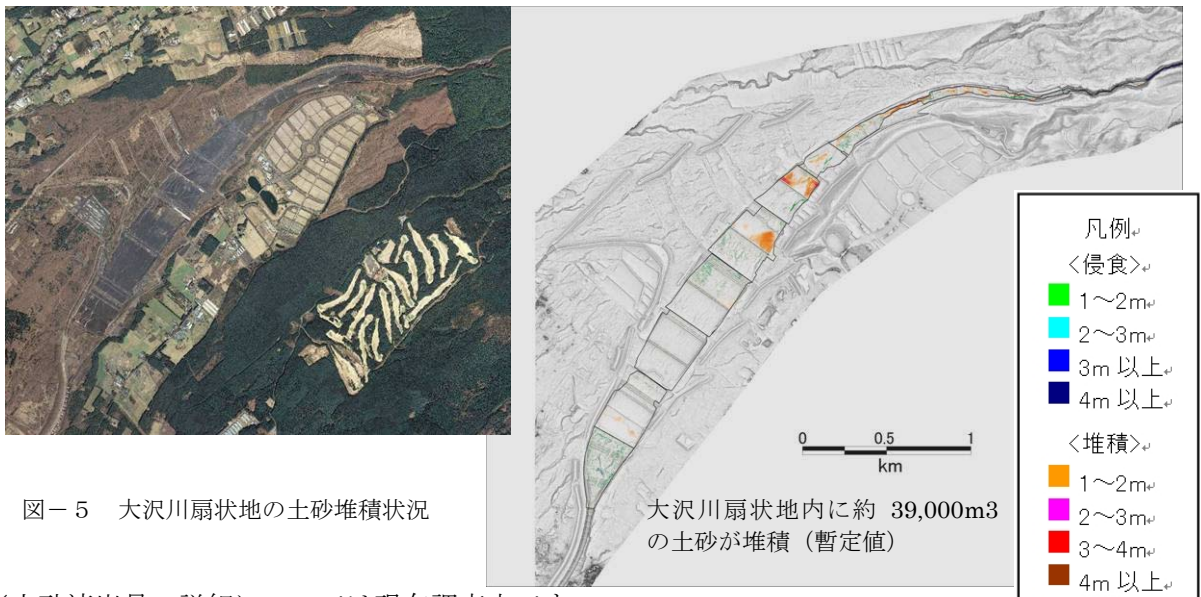
※平成22年10月から地震発生前までの変化を含みます。

※積雪の影響を極力減らすため、6月に計測をしています。



図－4 大沢崩れの谷底に堆積している土砂量

3. 大沢川扇状地における平成 23 年 11 月 19 日に発生した小規模な土石流の土砂堆積状況



図－5 大沢川扇状地の土砂堆積状況

※土砂流出量の詳細については現在調査中です。

3. 配布先

富士市記者クラブ、富士宮市記者クラブ

4. 問い合わせ先

国土交通省 富士砂防事務所

副所長（技術） 小林 もしくは 調査・品質確保課長 鈴木

TEL：0544-27-5221